

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
乳児保育 III Baby Child Care III		2年	前期	木曜日・1時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義	選択	(保育士養成課程選択必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
小島 寿美代	非常勤 講師室	授業内で指示します。	授業中に指示します	
授業の概要				
①具体的な子供の姿、子供の育つ場所に目を向け、乳児保育の内容、方法をさらに深める。 ②「乳児保育周辺」への関心を高め、具体的な対象への対応方法を考察する。 ③それらを通して、保育者としての自分自身への想いを深める。				
授業の到達目標				
①これからの実習にむけ子供の育つ環境全般に目を向けられるようにする。 ②子供の育ちを再考察し、様々な育ち段階にある人々の理解につなげられるようにする。 ③保育問題をどうとらえ、どう考え、どう処理していったらよいか、の道筋を考察できるようにする。 ④乳幼児にとどまらず、人とかかわりの仕事で、何が大切なのかに気づくことができるようにする。				
授業の方法				
講義中心であるが、新しい情報、広い視野での資料提等で学生自らの学習を図る。				
学習の成果				
①より具体的な保育者像の把握することができる。 ②乳幼児の発達をより細かく見ていくことで、障害児者等への理解につなげることができる。 ③保育問題の解決にむけての一つの方法としての考察の手順を学ぶことができる。 ④保育者としての自分自身への自覚が明確にすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 概要説明			
第2回目	[乳幼児の育つ場所で] 家庭を考える。 保育を考える。 入所施設での生活を考える。			
第3回目	[乳幼児の育つ場所で働くということを考える] 保育者の人間性喪失。 保育者のホスピタリズム。			
第4回目	[乳幼児の育つ環境を考える] 特に社会的養護が必要な子供たち。			
第5回目	[就学までの子供の育ちを理解する1] 乳児期の重要性を再確認する。			
第6回目	[就学までの子供の育ちを理解する2] 気になる子供の姿を通して1をより具体的にとらえる。			

第7回目	[就学までの子供の育ちを理解する3] 様々な発達の形があり、それをどうとらえるか、乳児の発達に合わせて見ていく。		
第8回目	[保育問題をどうとらえるか1] ①保育問題の成立のメカニズムを知る。②保育者の役割を考える。		
第9回目	[保育問題をどうとらえるか2] ③親子関係と保育者 親の役割という単純なとらえ方ではなく、関係性の中で多様なとらえ方に気づく。		
第10回目	[保育問題をどうとらえるか3] ④暖かさの感覚 問題解決にむけて、自分の中で何を大切にしていけるか。		
第11回目	[保育問題をどうとらえるか4] ⑤了解的方法での保育展開 豊かな自己資料にもとづく解決。 自分自身が研究対象となるということ。		
第12回目	[乳幼児期周辺のこと1] ①高齢者、障害者と赤ちゃん 乳幼児の育ちを通して障害児者、高齢者を理解する。		
第13回目	[乳幼児期周辺のこと2] ②生活の場での乳幼児とのかかわり、ということを具体的なことに結びつけて考える。		
第14回目	まとめと試験		
第15回目	授業のふり返りと考察を通し、保育者の自覚を認識する。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	授業で使われる教材の準備。授業に集中し、ノートをきちんととっているか。積極的な質問等々。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		70%	詳細は事前に説明。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
教科書:「乳児保育」(南山堂) 授業担当者より適宜指示または資料を配布する。			
履修上の心得・ルール			
社会人となることを意識して学習に取り組むこと。			